

2026年、観光立国から観光先進国へ

大手4社トップが語る

JTB社長 山北栄二郎氏
KNCTホールディングス社長 小山佳延氏
日本旅行社長 吉田圭吾氏
東武トップツアーズ社長 百木田康二氏
司会=本社取締役編集長・森田淳



山北氏

（司会）2025年の回顧。インバウンドが過去最高を記録する見通しの一方、オーバーアクセスによる人手不足、諸物価高騰、災害からの復興など、課題も山積している。国内旅行を中心、昨年の旅行業界と御社の取り組みの振り返りを。

（司会）前回の座談会では久しぶりに通常期に戻ったとコメントした。25年はもう少し伸びるかと期待したが、少し足踏みした感じ。

（小山）ただ、イベントなどさまざまなおことがあり、新しいビジネスの創出など流れを変える動きが

あった。私も今まで言えなかつたが、少し足踏みした感じ。

（吉田）前回の座談会では久しくぶりに通常期に戻ったとコメントした。25年はもう少し伸びるかと期待したが、少し足踏みした感じ。

（百木田）ただ、イベントなどさまざまなおことがあり、新しいビジネスの創出など流れを変える動きが

あった。私も今まで言えなかつたが、少し足踏みした感じ。

（司会）2025年の回顧。インバウンドが過去最高を記録する見通しの一方、オーバーアクセスによる人手不足、諸物

被災地の継続支援を出山 北



百木田氏

（吉田）前回の座談会では久しくぶりに通常期に戻ったとコメントした。25年はもう少し伸びるかと期待したが、少し足踏みした感じ。

（百木田）ただ、イベントなどさまざまなおことがあり、新しいビジネスの創出など流れを変える動きが

あった。私も今まで言えなかつたが、少し足踏みした感じ。

（司会）前回の座談会では久しくぶりに通常期に戻ったとコメントした。25年はもう少し伸びるかと期待したが、少し足踏みした感じ。

（吉田）ただ、イベントなどさまざまなおことがあり、新しいビジネスの創出など流れを変える動きが

あった。私も今まで言えなかつたが、少し足踏みした感じ。

（司会）2025年の回顧。インバウンドが過去最高を記録する見通しの一方、オーバーアクセスによる人手不足、諸物

25年を振り返る

新時代の経営を地域と共に推進

新しい年、2026年の幕開け。今年1年は旅行業界にとってどのような年になるだろうか。国内旅行は万博のような国際イベントの開催や大型テーマパークの開園など、大きな話題には乏しいが、大規模な自然災害やアクションなどさえなければ堅調に推移すること

が予想される。本紙恒例の新春旅行業大手4社トップ座談会では、今年の業界展望とともに、旅行業の新たな価値創造に向けた取り組み、ビジネスパートナーである旅館・ホテルとの関係について語っていた。 （東京・紀尾井町「福田家」で）

新時代の経営を地域と共に推進

（吉田）業界全体で印象に残ったのがマイナスだった。世界的な物価の中、海外旅行も含めて顧客の二極化が鮮明になった年ではないか。価格が上がったも積極的に旅行に出掛けた層と、ついていけない層がはつきりした。これが国内マーケットでは大きな課題と言える。

（百木田）国内ではまだ、温暖化の影響なのか、夏の酷暑によるお客様の出控え。そしてクマの問題がわざわざにあっても大きな問題になっている。紅葉のシーズンに参加するお客様が大幅に減少した。地域住民の方が被害を受けているが、旅行者に被害が及ぶ事態になると、お客様の移動に対する考え方があなたの考え方になるのではないかと危惧している。これは新たな問題だと認識しており、安心して旅行をいたがるよう、現地の受け入れいただけるよう、現地の受け入れ側として、しっかりと安全対策を講じていくことが不可欠だ。

（山北）被災地の熊谷については、当初は批判的な意見も少なくなかったが、改めて思うが、劇的に増えている。一つは価格。東京・大阪、京都を中心にホテルの価格が大幅に上昇し、これが国内

旅行は会社的、個人消費者でこれまでも言えなかつたが、一方で法人で新しいビジネスを創出できた一年だった。

（山北）インバウンドについても言及せねばならない。グラフを見て改めて思うが、劇的に増えている。一つは価格。東京・大阪、京都を中心にホテルの価格が大幅に上昇し、これが国内

旅行は会社的、個人消費者でこれまでも言えなかつたが、一方で法人で新しいビジネスを創出できた一年だった。

（山北）インバウンドについても言及せねばならない。グラフを見て改めて思うが、劇的に増えている。一つは価格。東京・大阪、京都を中心にホテルの価格が大幅に上昇し、これが国内